

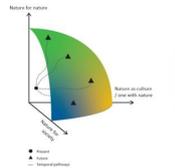


令和8年3月16日
総合政策局環境政策課

「グリーンインフラの新技术開発支援事業」公募の選定結果について
～民間企業等のグリーンインフラに係る新技术の開発を支援～

民間企業が有する新たなグリーンインフラ技術の実証を行う「グリーンインフラの新技术開発支援事業」の公募を行い、審査の結果、3事業を選定しました。

今後、当該技術等を用いて、実証フィールドでの検証を行い、その実用可能性などをとりまとめる予定です。

応募者	応募名称、開発技術の概要
<p>株式会社 バイオーム</p>	<p>応募名称：DX技術を用いたグリーンインフラの生物多様性ポテンシャルの類型化と市民参加型コンテンツによる価値化・普及手法の開発</p> <p>2030年ネイチャーポジティブの実現に向け、グリーンインフラを社会に実装させるフェーズにあるが、民間投資を促す評価基盤が不足しており、高解像度な広域評価技術と、人々の行動・意識変容を経済価値へ接続する仕組みが求められている。このため、Biomeの分布データに基づく高解像度な生息ポテンシャルの類型化と、学習ツーリズムによる体験価値の創出を実施し、ユーザーの活動分析を通じて、自然資本の価値を賑わいや不動産価値等の経済的インセンティブへ接続するメカニズムを実証する。</p>  <p>いきものコレクションアプリ「Biome」既存の機能</p> <p>[実証フィールド：神奈川県横浜市]</p>
<p>鹿島建設 株式会社</p>	<p>応募名称：グリーンインフラとしての緑地の持続可能な維持管理に資する理解醸成・合意形成支援システムの社会実装</p> <p>緑地をグリーンインフラとして機能させるためには、維持管理への住民等のステークホルダーの理解促進と合意形成が肝要であり、その基盤として緑地のもたらす多機能性の定量的・科学的な評価情報と、その情報を活用したコミュニケーションの方法論の確立が必要とされている。このため、①先端技術を用いた緑地の効率的計測・データ解析、②解析データを用いた機能およびリスクの定量評価・可視化、及びこれらのプロセスのパイプライン化、③評価結果を用いた目標像検討や維持管理に関する理解促進・合意形成枠組みの検討を実施する。</p>  <p>Nature Futures Framework 概念図 出典:IPBES (2025) The Nature Futures Framework methodological guidance.</p>  <p>緑地計測イメージ図 出典:InVisionLabs(株)作成資料</p> <p>[実証フィールド：長野県軽井沢町、東京都調布市]</p>
<p>株式会社 ウエスコ</p>	<p>応募名称：都市緑水冷却効果の政策評価モデル構築事業</p> <p>猛暑の深刻化により、熱中症の増加など、都市の暑さ対策は喫緊の課題となっており、その対策として緑地や水辺が涼しさに寄与することは広く知られているが、その効果を定量的に評価できる仕組みは十分に整っていない。このため、PLATEAU3D都市モデルと温熱流体解析を活用し、空き地緑化や水域拡張が都市の温熱環境に与える影響を高解像度で定量化し、その効果を健康・エネルギー・経済便益へ統合評価可能な政策判断モデルとして構築する。</p>  <p>都市緑化シミュレーション：熱環境のビフォー・アフター比較</p> <p>イメージ図</p> <p>[実証フィールド：大阪府東大阪市]</p>

<問い合わせ先>

総合政策局環境政策課 高森、鎌田

TEL : 03-5253-8111 (内線 24331、24422) 、03-5253-8262 (直通)

